

(二―②) 主権者教育と関連付けられる指導

実践事例【中学校】

規則は誰のもの〔内容項目 C 遵法精神、公德心〕

◆教材名「二通の手紙」出典…「私たちの道徳」文部科学省 平成二十六年
〈ねらいとする道徳的価値について〉

社会には何らかのきまりがある。このきまりは、自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することを自覚することが大切である。中学生にとって、きまりに多少の不便さや不自由さを感じていても、生活を支える安心・安全が根底にあること、社会生活に秩序を与え摩擦を最小限にするために必要であることを理解させることは大切である。しかしながら、全てきまり通りに行動すれば居心地のよい生活が必ずしも送れるとは限らない。なぜならばその根底には、優しさや思いやりといった人として忘れてはならない人間尊重の精神がなければならぬからである。

本教材を扱うに当たっては、主な登場人物である元さん（入園係）、幼い姉弟（来園者）、動物園を運営する側の人々に視点を当てる。そして、三者の判断や行動を支

える考え方について生徒が話し合うことを通して、法やきまりの在り方について考えさせるようにする。

私たち人間は、いろいろな価値観をもっていたり立場があったりすることから、どのように法やきまりを設定したとしても、全ての人の願いを実現できるような合意形成を図ることは困難である。だからこそ、最低限納得のできるところで合意し、合意した法やきまりは尊重し、一人一人が守ることが大切である。また、法やきまりは自分たちを守るだけではなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを見つめ直し、法やきまりをよりよいものに変えていこうとする積極的な意欲や態度を育てることも重要である。

◆ねらい

誰もが納得できる法やきまりについて考えることを通して、合意した法やきまりは尊重し、一人一人が守るだけではなく、よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やきまりに関わろうとする意欲や態度を育てる。

◆ 指導展開例

【教師】今日は、「二通の手紙」という読み物を通して、みなさんと規則について話し合っていていきましよう。(黒板に教材名を書く)

一 教材「二通の手紙」を読んで話し合う。

【教師】「私たちの道徳」の一四〇ページを開きましよう。

いいですか。それでは、先生が読みます。(範読する)

【教師】何か感想はありますか。印象に残った人やその行動など、思ったことを話してみてください。

(感想で出た登場人物や場面の挿絵を貼る)

【生徒A】元さんが、姉弟を入園させた場面が心に残りました。

【教師】なぜその場面が心に残ったのですか。同じように思った人もいますか。

【生徒B】弟の誕生日だからと言って、入園をお願いする姉の願いを受け入れた元さんの行動が優しいなど感じたからです。

【教師】疑問に思ったことはありませんか。

【生徒C】私は、元さんが懲戒処分になったにもかかわらず、晴れ晴れとした顔で職場を去ったのは、ど

うしてだろうと不思議に思いました。

【生徒D】上司のことですが、元さんが懲戒処分というのは重すぎると思いました。

【教師】皆さんからは、元さんについての感想がありました。話を振り返ってみます。まずこの話は、入園終了時刻の午後四時を少し過ぎた動物園の場面から始まります。入園時刻を少し過ぎただけなのだから入れてあげようとする山田さんに対して、きっぱりと拒否をする佐々木さんの会話から、佐々木さんが経験した数年前の話へと場面が変わります。

入園終了時刻は午後四時。そして小学校以下の子供は保護者同伴でなければならぬという規則が動物園にはありました。その規則を破って動物園に姉弟を入れた元さん、幼い姉弟、そして動物園を経営する側の人がいました。それぞれ人物の行動や考え方について、意見を聞かせてください。少し考える時間をとります。(時間は三十秒)

【教師】それでは、元さん、幼い姉弟、そして動物園を経営する側の人のどの立場の人の行動や考え方についてどのように思ったのか隣りの人と意見の交換をしましょう。(時間は三十秒)

「入園終了時刻は午後四時。小学校以下の子供は保護者同伴でなければなりません。」という規則が動物園にはあった。姉弟、仕事をやめた元さん、動物園を経営する人、それぞれの人たちの行動や考え方についてどのように思いますか。(時間は十二分)

【教師】 まず、姉弟について考えた人はいますか。(話合いの様子を観察し、意図的指名をする)

【生徒E】 姉弟は、理由があつて保護者と来られないのだから夕方になつても仕方がない。(共感的な意見)

【生徒F】 しかし、閉園時刻があるのだから規則は守るべきだ。(批判的な意見)

【教師】 元さんについて考えた人はどうですか。

【生徒G】 毎日柵からのぞいている姉弟の様子から何とかしてやりたいと思つて入れてあげた気持ちには分かる。それに、閉園時刻を少し過ぎただけなのだから。(共感的な意見)

【生徒H】 姉弟を入れたとしても、規則では保護者同伴なのだから、元さんが責任をもつて姉弟に付き添うべきだと思う。(批判的な意見)

【教師】 では、動物園を運営する側の人たちについてはどうでしょうか。

【生徒I】 動物園の規則として決めたのだから、従業員の皆様には守ってもらふ必要があると思つている。(共感的な意見)

【生徒J】 そうはいつても、この姉弟のように遅い時間からしか来られない人たちもきつと思つるので、もっと柔軟に考えることもできるはずだ。(批判的な意見)

【教師】 黒板を見てください。姉弟には規則の時間内に入園できない理由があつた。元さんはそれを察知して入園させた。しかし動物園を経営する人たち側からすると規則は守るべきであるという、それぞれの立場に共感的な意見がありました。一方、そうはいつても規則なのだから姉弟は守るべきだし、元さんは保護者同伴でなければならぬことが分かつていたにもかかわらず入園させたのだから自分の責任はどうかなのか。動物園を経営する人たちは、いろいろな人たちのことを考えた対応があるのではとした批判的な意見もありました。

(生徒の発言を、「共感的な意見(黄色)」「批判

判的な意見（赤色）」に整理し、分類して板書する）

皆さんの発表にもありましたが、動物園には、「入園終了時刻は四時。そして小学校以下の子供は保護者同伴でなければならぬ」という規則がありました。先ほど皆さんが考えた姉弟、元さん、動物園を運営する人たちそれぞれの考え方は様々です。

〈議論に値する発問〉

元さんにとっても、姉弟にとっても、動物園を経営する側の人の誰にとっても納得のできる規則は考えられるのでしょうか。（時間は二十五分）

【教師】はじめに、一人一人がじっくりと考えてほしいと思います。個人で考えを書いた後、グループで話し合います。

ワークシートの一つ星（★）に記入しましょう。（ワークシートに記入する時間は三分）

【教師】それでは、これから、自分の考えや友達のかえについて四人グループで話し合います。四人のグループになりましょう。

まず、一人が考えを発表した後、他の三人は

発表者の考えについて賛成すること、補足すること、賛成できないこと（その場合は、理由と提案を出す）について発表します。誰もが発表者に対して意見を述べることを、時間は三分間とします。二人目の人の発言に対してみんな意見交換を三分間行います。このような手順で一巡します。では、はじめましょう。（十二分話し合う）

〈話し合いの様子〉

発表者…誰もが納得する規則はないと思う。規則は、事故や危険を回避するためのものなので納得する必要はない。そのときの最善策を規則にしなければならぬ。規則に感情はいらぬと思う。

意見①…けれども小学生以下の子供も入園できたら、動物園側の売り上げも上がるわけだから、例えば案内係を作ればいい。

意見②…案内係がいれば安心だけど、動物園側からすれば人件費がかかる。時と場合によって規則を柔軟にすることもあり得るのではないかな。例えば子供連れの多い日は四時頃までというようにするといいかもしれない。

意見③…「大体」とか「頃」というあいまいさは規則

として成立するのだろうか。全ての意見を取り入れると際限がない。

その規則の中で一人一人がどう対処するかが大切になってくると思う。

【教師】 終了です。それでは、どのような考えが出されたのか、いくつかのグループに紹介してもらいましょう。(二又は三グループが発表する)

【生徒K】 閉園時刻が四時なのだから守るべきだと思う。ただし、姉弟のような状況の人もいるから特別な配慮をしてもよいと思う。

【生徒L】 しかし、特別な配慮をしようとする規則が規則でなくなってしまう。

【生徒M】 動物園の経営を昼の部と夜の部というように分けられることも考えられる。

【生徒N】 それは、人間にとっては都合がよいかもしれないが、動物たちにとっては負担をかけることになる。

【生徒O】 どのような規則でも、誰にとっても納得のいく規則にはならないのではないか。

【教師】 そうすると、規則はあっても意味がないということになりませんか。

【生徒P】 規則は一個人のためにあるのではなくて、全ての人のためによりよく生活できるためには

必要だと思います。

【生徒Q】 誰にとっても納得のいく規則はつくれないと思う。どこかでそれぞれ我慢することも必要である。そして、みんなが合意した規則を守ろうとすることが必要なのではないか。

【教師】 ここまで、グループで話し合ったことを発表してもらいました。改めてもう一度考えてみます。ワークシートの二つ星(★★)に、グループで話し合ったことや全体で話し合ったことを受けて、規則の在り方について自分の考えをまとめましょう。

二 学習のまとめをする。

規則とはどのようにつくったとしても、いろいろな価値観をもった人たちがいるわけだから、全員の意に全て沿うような合意形成をすることは不可能である。だからこそ、最低限納得できるところで合意し、合意したものは尊重して、一人一人が守ることが大切である。さらに決まっていたとしても、よりよいものへと変えていこうと考えることはできる。(ワークシートは回収する)

〔中学校〕道徳科学習シート

年

組

番

名前

★ 自分の考えをまとめ、友達と話し合いました。

元さんにとっても、姉弟にとっても、動物園を運営する側の誰にとっても、納得のできる規則は考えられるのでしょうか。

★★ 友達と話し合った後、あなたが考えたことを書きましょう。



「二通の手紙」

動物園の規則 「入園終了時刻は午後四時。小学校以下の子供は、保護者同伴でなければならない。」

元さん、幼い姉弟、動物園を経営する側の人、それぞれの人たちの行動や考え方についてどのように思いますか。

- ・姉弟を何とかして入園させたいという気持ちは分かる。



- ・来られない理由があるのだから夕方になっても仕方がない。
- ・閉園時刻は守らないといけない。

- ・保護者が付いていないのだから、責任をもって付き添うべきだ。



- ・動物園の規則なのだから守ってもらう必要がある。
- ・事情のある人もいるのだから、柔軟な対応があってもよい。

元さんにとっても、姉弟にとっても、動物園を経営する側の人、誰にとっても納得のできる規則は考えられるのでしょうか。

- ・閉園時刻が決められているのだから、守るべきだと思う。
- ・よく考えられてつくられているはずだから守ることが大切。
- ・特別な配慮も必要なのではないか。
- ・規則は守らなければならないけれど、多くの人に来園してもらうためにも柔軟な対応が必要
- ・特例を作ってしまうと、規則が規則でなくなってしまう。
- ・誰にとつての納得のいく規則はない。
- ・どの立場の人にとつても納得のいく規則は作るできない。

規則

- ・みんなが安全に生活できるための規則であるため、決められた規則は一人一人が守ることが大切。

※読み物教材は省略